

平成28年4月11日・12日の営巣状況

現在「十三崖のチョウゲンボウ繁殖地」では、夜間瀬川の上流側の崖に2つがい、下流側の崖に1つがいのチョウゲンボウが営巣しています。そして全てのつがいが抱卵しています。チョウゲンボウでは、メスが多くの時間抱卵します。オスが餌を捕え持ち帰ると、メスは巣から出て餌をもらいます。メスが巣の外で食事をしている間は、雄が抱卵します。

上流側の2つがいは、巣が非常に近い位置にありますが、隣のつがいに干渉することはほとんどありません。また、12日の観察では、崖の対岸に飛翔するトビに、その2つがいのオスが攻撃しました。しかし、2羽が協力して攻撃しているようには思えませんでした。鳥類は天敵に対して集団で防衛するため集団営巣を行う場合がありますが、チョウゲンボウが集団になる理由はそれとは異なるようです。

下流側の巣はハヤブサの巣に近い位置にあります。ハヤブサはチョウゲンボウの巣の近くにとまることもありますが、ハヤブサが抱卵を始めてからは、お互いに目立った干渉はないようです。



オスがメスにハタネズミをわたす(撮影:小林進)